

国内クレジット認証委員会御中

審査結果概要書

平成 22 年 2 月 24 日

審査機関名 株式会社日本スマートエナジー

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	A重油焚貫流ボイラーからガス焚貫流ボイラーへの更新プロジェクト
排出削減事業者名	林兼産業株式会社
排出削減共同実施事業者名	テス・エンジニアリング株式会社
事業実施場所	林兼産業株式会社飼料事業部下関工場 (山口県下関市東大和町2丁目10番3号)
事業の概要	既設のA重油焚貫流ボイラを高効率のガス焚貫流ボイラに更新することにより、燃料使用量を削減し、また低炭素燃料への転換により、CO2 排出量を削減する。
排出削減量の計画	634 t CO2/年 (事業実施期間合計 2,325tCO2)
国内クレジット認証期間	開始日 2009 年 8 月 1 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新

2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している。

3. 実施した審査手続きの概要

審査手続きにより、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続き
日本国内で実施されること	<p>事業計画が日本国内で実施されていることを、事業サイトを訪問して確認した。</p> <p>排出削減事業実施場所：林兼産業株式会社 飼料工場下関工場</p>
追加性を有すること	<p>1) 本事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、CO2 排出量の削減を目的として実施されたことを事業者、その他関係者への質問等により確認した。</p> <p>2) 本事業が実施できない場合には、既存の設備が継続的に使用されることを質問、関連資料の閲覧、および事業サイト視察時の既設設備導入年月の確認等により確認している。</p> <p>3) 排出削減事業の投資回収年数計算について、入手した根拠資料、質問および検算により 5.7 年であることを確認した。投資回収年数の根拠データにつき、関連証憑と突合することにより正確性を確認している。</p> <p>4) 排出削減事業者は、飼料の製造事業を進めているが、更新前に使用していた重油ボイラは、CO2 排出量が多く、重油による環境リスク、価格の高騰及び需給の不安定さを考慮して、国内クレジットの活用による都市ガス使用の高効率ボイラ導入の意義を認めて投資意思決定に至ったことを質問により確認した。</p>
自主行動計画に参加していない者により行われること	<p>自主行動計画に参加していないことについては、排出削減事業者への質問、その他関係者への質問により、自主行動計画に参加していない事業者であることの確認を実施した。</p>
排出削減方法論に基づいて実施されること	<p>1) 本排出削減事業は、承認排出削減方法論 001「ボイラーの更新」に基づき排出削減量を計算しており、また、方法論の適用条件を満たしていることを確認している。</p> <p>【方法論番号 001 ボイラーの更新】</p> <p>適用条件 1 については、本事業は既存のボイラーの仕様書の確認や都市ガスボイラーの視察、仕様書の確認等により、高効率のボイラを導入したことを確認した。</p> <p>適用条件 2 については、設備導入時期、法定耐用年数、法定検査結果報告書、現地審査での設備稼働状況についての関係者への質問により、既設ボイラーが継続して使用可能であること確認している。</p>

	<p>適用条件 3 については、更新後のボイラーで生産された蒸気を自家消費することを現地視察及び提出された資料、関係者への質問により確認した。</p> <p>2) その他、バウンダリの設定、ベースラインの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリングの方法が適切であることについて、それぞれ質問と関連証憑により確認している。</p> <p>3) ベースライン排出量の算定に係る既存設備の使用年数がいずれの設備も法定耐用年数 10 年の 2 倍（20 年）を超えていないことを、質問・関連資料の閲覧により確認した。</p>
--	---

4. 特記事項

- ・投資回収年数については、補助金を除いた純投資額をもとに算出している。